



特集 2

学びの殿堂、 地域医療の拠点

全国から学生が集まる山梨大学医学部。

昭和 55 年の開校以来、地域と共に歩んできた学びの殿堂は、
最先端の医療を行う附属病院を携えて、
地域医療の発展を根幹で支えています。



心身共に健やかな 市民生活の基盤

地域の次代を担う良き医療者を育成する山梨大学医学部。
附属病院では、最先端の設備を整え高度な医療を提供しています。

昭和55年に旧玉穂町に山梨医科大学を開校して以来、中央市に本拠を置き、「国民に信頼される良き医療者の育成」という教育理念のもと、多くの医療者を世に送り出してきた山梨

大学医学部。平成24年度からは、文部科学省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成事業」の採択を受け、「リエゾンアカデミー」を創設し、研究医の早期学位取得と自立を支援する教育プログラムに取り組むなど、常に世界レベルを意識した研究・教育活動を展開しています。

一方、附属病院は、県内唯一の先端医療機関であり、高度医療の導入・開発に積極的に取り組んでいます。平成24年10月に放射線治療センターが開所され、最先端の放射線治療システムによるガン治療が可能になったことに加え、同25年4月には、全国の国立大学病院に先駆けて最新型内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチS.i」を導入。身体的負担の少ない最新式の内視鏡手術も提供されています。現在、本格的な病院再整備事業が進められており、平成28年には高機能手術室を整備し

研究、教育活動と地域医療の拠点である山梨大学医学部

大好きな中央市。将来的には親を呼び寄せ、一緒に暮らせたらと思っています。



山梨大学臨床教育センター
医師
秋田 知子さん

中央市に住むようになって8年になります。大学の二次試験を受けるために初めて来たときから、「なんて良い所なんだろう」と、すぐに好きになりました。何より家の窓から富士山が見えるというのがたまた

なく嬉しくて、家族や友人にも自慢しているんですよ。

暮らす人の人柄もいいですね。患者さんと接していても、「山梨の人ってあったかいなあ」と感じる場面が多くありますし、自然が多いのに生活が便利なのも気に入っていて、遠くへ派遣されない限り一生住み続けたいと思っています。



山梨大学には尊敬できる先生が多く、働きやすい環境も整備されていると感じています。来年から放射線科の医局に入局し、がん治療に携わりながら、3年後に認定医、5年後に専門医の取得を目指します。緩和治療も学び、ゆくゆくは患者さんに寄り添える腫瘍専門医になって、地域に密着した仕事をしていきたいと考えています。

Interview

た新病棟が完成するなど、地方都市にあつて最先端の医療が受けられる環境が整いつつあります。

市民の身近な存在として、 地域との連携も進んでいます

開校から30余年、山梨大学を中心とした都市整備も進み、文教地域の色合いが濃い、落ち着いたまちが形作られています。周辺には、内科、耳鼻科、小児科、皮膚科、眼科など多くの個人病院も開業しており、安心感を醸成しています。

一方、山梨大学には、地域医療への貢献という使命があり、山梨大学附属病院、山梨県、地域医療機関と連携したさまざまな取り組みも行われています。

中央市との間では、平成18年に「中央市と国立大学法人山梨大学との包括的連携に関する協定」を結んでいます。市民にとっても、山梨大学および附属病院は身近な存在となっており、広報誌への附属病院の医師による健康指導の寄稿、市立図書館からの待合室や小児科病棟への絵本児童書の配本、市立保育園の職員を対象にした応急処置の訓練など、幅広い分野でさまざまな連携が日常的に行われています。

Academic place of learning, base of local medical services

The University of Yamanashi, Faculty of Medicine, where students gather from all over Japan.

Since its establishment in 1980, the place for medical studies that is working with local community, and along with the university hospital that is offering advanced medical treatments, now support greatly for development of local medical services.



文教地域として地域とともに発展する山梨大学附属病院

Interview

人生の半分近くを過ごした中央市。
これからもこの街で頑張っていきます。



山梨大学医学部附属病院
看護師
細野 英伸さん

大学入学と同時にこちらに来ましたから、もう16年になります。この間ずっと中央市に住み、大学へ通い、卒業後は附属病院に勤務してきました。私が初めて来た頃には、環状道路もショッピングセンターもなく、田畑が広がる中にポツンとキャンパスがある状態でしたが、今では都市化が進み、とても便利で住みやすい街になったなあと感じます。

幼い頃から何度も入院を経験していて看護師という職業が、身近な職業だったことから、尊敬する母が看護師だったことから、私自身も看護師を目指すようになりました。卒業後は、地元群馬の病院への就職も考えましたが、職場環境の良さ、暮らしやすさなどが決め手となって、山梨での就職を決めました。以来12年

間、整形外科病棟で、患者さんに寄り添い、日々回復の喜びを分かち合い、完治して元の生活に戻って行かれることに、嬉しさを感じてきました。昨年副師長を拝命し、ますます責任を感じています。とはいえ、まだまだ道半ば。日々学ぶこと、身に着けるべきことも多いので、今後も精進を続けていきたいと思っています。

